

優秀賞

かわいそうじゃなく・・・

横須賀市立神明中学校三年

乾 航 治

「かわいそうじゃなく・・・。」

母と2人でテレビを見ていたときに、母がつぶやいた言葉です。見ていた番組は発達障がいの人を取り上げたものでした。

僕は広汎性発達障がいと軽度知的障がいです。小さいときは歩き始めも遅くて、言葉を話すのもとても遅かったそうです。幼稚園では、先生の話をじっと聞けなくて、毎日毎日しかられた記憶しかありません。その幼稚園時代の終わりの頃に受けた検査で障がいがあることがわかりました。しかし、僕の両親はおどろかなかったそうです。おどろかなかった理由は、障がいがあってもなくても何も変わらないからだと言っていました。障がいがわかってからも母はいつもと同じように、自分のことは自分で、できないことはできるまでがんばるように教えてくれました。

ある日僕が何度やつてもできないことがあって、泣きながら、

「僕は障がいがあるからできないんだ。」

と言ったとき、今まで見たことがないくらい怖い顔の母にしかられました。母は、「障がいを言い訳にしてはいけない。私は障がいがあることをかわいそうだと思うたことはないよ。障がいがある人はその障がいを乗り越えられる努力をする才能が必ずそなわっているから。だから障がいのある人を見かけて手助けをするときは、かわいそうなんて思っちゃいけない。同じ人間として困っている人がいたら助ける。それだけでいい。」

その言葉を聞いて、自分が障がいがあるのに、もっと重い障がいがある人に対してかわいそうだと思ってしまうことに気がつきました。学校ででき

ないことや、わからないことが多い僕をクラスのみんなはよく助けてくれます。みんなは僕をかわいそうだと思っただけで助けてくれているのではなく、ただ困っているから助けてくれているのだと思います。いつも助けてくれるクラスのみんなのおかげで、僕はできないことは多いけれど、積極的にクラス活動に参加し、クラスの一員だと感じることができるようになりました。クラスのみんなの優しさに感謝しています。最初に書いた番組では、発達障がいの人に対して冷たくする人を取り上げていて、そのテレビに出ている人が、

「障害があるだけでもかわいそうなのに、健常者が冷たくするなんてひどい。」と言っていました。うちの家族はもちろん、僕のことをかわいそうだと思っないし、特別あつかいもしません。それが僕にとっては普通だし、そうしてくれたからこそがんばれる僕がいます。僕の障がいは治りません。でも、治らなくていいです。障がいがあるからこそわかる、人の心のつらさや痛みがあるからです。そしていつか僕に子どもができたなら「かわいそうだから。」と思うのではなく、同じ人間としてどんな人にも優しくしてあげてほしいと思います。